

## 必読！「石巻赤十字病院の 100 日間、小学館」

医療法人健育会西伊豆病院 仲田和正

「石巻赤十字病院の 100 日間、石巻赤十字病院 + 由井りょう子、小学館、2011. 10」  
という本を読みました。

石巻では津波後、急性期病院は石巻赤十字病院ただ一つになってしまいました。  
震災直後 4 分で災害対策本部を立ち上げ、60 日間でトリアージした患者は、  
緑 5118 人、黄 6644 人、赤 1726 人、黒 220 人という膨大な数に上ります。  
かつて国内でこれほどの災害体験をした病院は皆無であり、その体験記録は  
極めて貴重であると思います。どんなに災害想定訓練をしたところで  
実体験にはかないません。

地震直後 4 分で災害対策本部が立ちあがり、トリアージエリアを 40 分で設置完了、  
緑、黄のビニールシートが敷かれ医師配置も 1 時間弱で完了します。  
外来中止アナウンスがされ簡易ベッドが設置されます。  
津波と市内中心部の冠水の為、当日はほとんど患者は来ませんでした。翌日から  
患者が殺到しはじめます。  
停電の中、病院だけが自家発電で電気が点いているため避難民も押し寄せます。  
避難者を病院から出そうとしますが猛烈なブーイング、そしてその説得。

緑患者を院内でトリアージすると病院に居座られてしまうので、雪の中、  
緑患者は屋外のテントとし院内には入れさせなかったとのこと。  
NTT から被災者用固定電話の設置の申し出がありました。病院に来る人が  
増えてしまうので断っています。

黒患者のエリアは地下駐車場とし職員 10 名が 24 時間体制で当たっています。  
遺体搬出はトラックで行いましたが決して積み重ねることはせず 1 台に 5 遺体  
までとしたとのこと。混乱の最中、思いやりに感動しました。  
身元不明遺体は、性別、髪型の特徴、身長、顔写真を付けてファイリング  
し安否不明問い合わせに応じています。

3 月 11 日からの患者、職員の食事はどのようにしたのか、水、食料の不足、  
自家発電の重油不足、情報伝達手段の不足にどのように対応していったかの  
迫真の凄まじいドキュメンタリーです。

食料は、3 月 18 日の TV 生中継で栄養士が直接、不足を訴えた翌日から全国から  
救援物資が殺到したとのこと。災害時、情報発信の重要性がよくわかりました。  
食料は外来患者まではとても回らないので病棟へ上げる食事は新聞紙で隠して  
運んだとのこと。

透析、HOT 患者に具体的にどのように対応したのか、避難所医療をどうしたか、薬局業務、心のケアはと、災害時の貴重な体験が満載の一冊です。

東海大地震に備え、当西伊豆病院でも、早速この本をテキストにして勉強会を行うことにしました。

是非、一読をお勧めします。